



こばやしかずゆき
小林一幸 議員

職員 (燃え尽き症候群) バーンアウト による休職や 退職はないか

「私の視点」
権限移譲や行政サービスの多様化など、業務量増加等によりストレスや体調を崩している町職員に対して、フォロー体制を整備していくべきだ。

答弁(町長) バーンアウトによる休職、退職はない

問 町職員の業務量の増加等により、行政サービス提供に影響は出ていないのか。

答 (町長) 社会のニーズの多様化等に伴い、職員の担う業務量が増加している。行政サービスの質を維持しつつ、効率的な業務運営を行うことが求められているので、適正な職員配置となるよう努め、安定的・継続的な行政サービスの維持、向上に努めている。

問 現在の町の組織体制及び職員数では業務の効率化等を図ることは難しく、組織の見直しなどを進めていくべきではないか。

答 (町長) 総合的な行政課題に対応するため、課を横断した組織の再編を行う等、限られた人員の中で、より効率的に業務の遂行が可能となる組織体制とすることで、町が直面する課題に対応している。また、必要に応じて係の統廃合や新設も行っており、今後も、多様化する町民のニーズに応えられる組織体制となるよう努めていく。

問 バーンアウト(燃え尽き症候群)により休職や退職などの状況にならない体制づくりはできているのか。

答 (町長) 住民ニーズが多様化する中、職員のスキルアップと同時に職員のケアについても考えていかなければならない。バーンアウトによる休職や退職する職員はいないが、今後の対策について研究していく。

問 研究ではなく、実際にやっていただきたいと思うが、どうか。

答 (副町長) 通常の業務以外の仕事が国から降り注いでくる中、職員は一生懸命頑張ってくれている。職員の些細な変化に管理職が気づいて配慮することが重要である。職員が生きがいを持って仕事ができるような人事配置をしていきたい。

第2期たまむらささえあい計画

問 計画の自己評価をしたとあるが、外部評価も必要ではないか。

答 (健康福祉課長) 計画策定委員から担当者の主観での評価ではないかとの意見もある。今後、どのような形がいいのか検討していきたい。

こんな質問もしています

・医療・介護・福祉従事者への支援について



生きがいをもって仕事ができるよう職員に対するケアが必要



みともみえこ
三友美恵子 議員

子供 子育て支援の 条例制定を求む

「私の視点」
子供たちの健全育成と子育て環境のさらなる改善を求め、町が元気になるようなまちづくりの観点を入れた条例を制定すべきだ。

答弁(町長) 各世代が、つながれるような条例をつくる

問 子供に関する基本条例制定の進捗状況は。

答 (町長) 現在、条例制定に向けて情報収集を進めている。

問 こども条例を通して、町が元気になるようなまちづくりの観点を入れた条例を求む。

答 (町長) 幅広い方々の意見を聞きながら、地域社会全体で生き生きと子育てできる、みんながつながれるような条例にしていく。

不登校児童・生徒の対策

問 不登校児童・生徒の現在の対策は。

答 (教育長) 不登校を問題行動として捉えず、児童生徒が社会的に自立することに重点を置くことが重要であるため、生徒及び保護者の気持ちに寄り添い、将来の自立に向けた支援をしている。

問 子供たちとどのようにつながっているのか。

答 (教育長) 学校では、担任、養護教諭、スクールカウンセラーなどで組織的に対応している。また、教育支援センター「ふれあい」においても丁寧に学習等の支援を行っている。フリースクールなど民間の支援施設との連携も広がっている。

問 PCを活用したオンラインによる支援についてはどうか。

答 (教育長) 児童・生徒の状況に応じた支援として、オンラインで授業の様子を流したり、担任とPCを通じて連絡したりするなどの対応をしている。また、群馬県総合教育センターが不

登校児童・生徒へのオンライン支援として「つなサポ」を開始している。自宅のPCから仮想空間にアバターとして参加することができ、個別の学習や相談を行ったり、オンライン上のホームルームやゲームなどで交流を行ったりしている。

問 不登校の児童・生徒を増加させない対策は。

答 (教育長) 児童・生徒一人一人に寄り添い、早い段階で適切な指導を行い、組織的に対処するとともに、子供たちを不登校にさせない未然防止の視点を忘れてはならないと思っている。

こんな質問もしています

・待機児童問題と保育所の確保について
・今年が鍵であるHPVワクチン接種の広報を求む



県では3Dメタバースによる不登校支援「つなサポ」を開発。町も不登校児童・生徒に寄り添ったさらなる支援を

次のページは
笠原議員
一般質問